

會學濟經學大國帝都京

# 叢論濟經

號五第卷六十五第  
月五年八十和昭

## 論叢

利子に於ける勢力……………文學博士 高田保馬

資本形成過程の分析と貨幣需要……………經濟學士 中谷實

支那私幣考……………經濟學士 穂積文雄

ヒツクスの資本理論……………經濟學士 青山秀夫

## 研究

地方貿易統計の問題……………經濟學士 有田正三

## 說苑

朝鮮經濟の近代化に就て……………經濟學士 堀江保藏

## 附錄

彙報

彙報

經濟學會

○来る五月二十八日は本學部創立記念日に相當り、恒例として當日を中心に公開講演會、研究報告會並びに懇親會を開催、經濟學會大會と致したる處、本年は時局柄交通輻輳その他のため、昨年と同じく、研究報告會及び懇親會はこれを中止致し公開講演會のみ開催する事と決定した。右御諒承被成下度。

尙公開講演會は来る五月二十九日(土)午後一時より開催、農林省食品局長田中啓一氏、關西大學教授磯部喜一氏及び本學部教授沙見三郎氏の講演ある筈。

○四月例会 四月二十日(火)樂友會館に於て開催、一同午餐を共にした後、左の如き報告を聴いた。

朝鮮經濟瞥見 山杉 講師  
堀江助教授  
前者は北鮮に於ける化學工業及び水電開發、南滿を中心とする石炭製鐵及び人造石油事業について種々興味ある見聞談を報告、滿鮮經濟の將來に關し資材及び勞働力の點に幾多の克服さるべき問題の存することを指摘した。後者の報告内容については本誌の當該論文参照。

報告終了後經濟學會今後の發展方策につき、部長を中心に懇

談午後五時散會した。當日の出席者左の如し。

沙見、谷口、八木、柴田、大塚、堀江(保)、中谷、佐波、徳永、靜田、白杉、青山、山岡、田杉、田口、堀江(英)の諸先生、青盛、有田、鐘方、岡部、河野、金森、菊地、島津、杉原、松枝、三谷、山崎の諸氏

○經濟學會會計報告(白昭和十七年四月一日至昭和十八年三月三十一日)

一 般 會 計		基 本 金 會 計	
損益計算表	損益計算表	損益計算表	損益計算表
收入	收入	收入	收入
雜 處 分	利 子	利 子	利 子
高 一八、八四七・三	四、四〇〇	三、七五・七	三、七五・七
補 助	補 助	補 助	補 助
一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇
計 一八、九四七・三	計 一八、九四七・三	計 一八、九四七・三	計 一八、九四七・三
支出	支出	支出	支出
雜 誌 紙 代 及 製 本	雜 費	雜 費	雜 費
三、九八・八〇	七・一〇	七・一〇	七・一〇
印 刷 原 稿 料 等	稅 金	稅 金	稅 金
一、五三・〇六	四七・四	四七・四	四七・四
通 信 費 振 替 料 金	謝 金	謝 金	謝 金
一、一五・〇六	一、一〇〇・〇〇	一、一〇〇・〇〇	一、一〇〇・〇〇
及 手 當 告 謝 金	一 般 會 計 ( 補 助 )	一 般 會 計 ( 補 助 )	一 般 會 計 ( 補 助 )
三、一〇五・四四	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇
廣 告 料	計	計	計
四三三・〇三	二、七四・六	二、七四・六	二、七四・六
消 耗 品	當 期 益	當 期 益	當 期 益
一〇八・八三	金 六六・一〇	金 六六・一〇	金 六六・一〇
雜 費			
一八、七二・五			
計 一八、九四七・三			
差引後期繰越金			
一〇九・九			

○會員勸詩

樂報

第五十六卷

五六五

第五號

一〇三

彙報

第五十六卷

五六六

第五號

一〇四